立教大學新聞

発行所
豊島区池袋三丁目
立教大学新聞学会
© 振替東京 70852
電話(97)3121—9内線 9
発行人　野口定男
毎月廿日発行

二階に学習参考書を陳列して御待います
芳林堂書店
池袋西口バス通り
TEL (97) 四〇八〇・八〇二五

創造的知性をのばせ

昭和三十一年度の卒業生を送る

総長　松下正壽

今日、目出度く卒業される諸君に対し私は心から祝いの言葉を述べたい。諸君の大部分は銀行、会社、学校、報道機関等に就職されるであろうが並んで大学院に入り外国に留学し、また家庭に帰る方もあると思う。何れにせよ、諸君は諸君の長い人生のうち重要な時期に親しく大学生活を一応終えたのである。そこで私はこの機会に諸君が大学及び大学生活というものを反省し、過去四力年内外の生活を将来に活かして頂くことを希望する。一体大学とは何であるか。学校教育法第五十二條には、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させる事を目的とする。」と規定してある。

大学の本質を繰返的に、もうひとつ言えば、自然は人間に利用されるべき問題に於てのみ人間の関心事であり、而も人間の自然利用は人間の生命財産の増殖に役立つ事であり、而も人間の自然利用は人間の生命財産の増殖に役立つ事であり、而も人間の自然利用は人間の生命財産の増殖に役立つ事であり、而も人間の自然利用は人間の生命財産の増殖に役立つ事であり、自然は人間に利用されるべき問題に於てのみ人間の関心

立教のバックボーンを語る

座談会　総長を囲んで

戦後八年目、世相にもゆとりの見えて来た頃、諸君は立教の門をくぐったのである。この間からタツカーホールの建立、大学院の設置、そして総長に佐々木氏の後を受けて松下氏が就任し、原子炉問題、綜合グランドの完成と立教の勃興期に入ったのであるさて、この四年間を過した立教で諸君が全身から吸収したものは何か。

出席者
松下総長
学生(発言順)
小沢福夫(経四)
鈴木階司(理四)
中村朝子(文四)
椎名義雄(経二)
楠井範子(文三)
高橋克嘉(経三)
司会　編集部

建学精神いまいづこ
ピンとこない抽象性
横を向く学生

司会　今日の座談会のテーマは立教のバック・ボーンを語る、建学の精神を語る、というのがそのテーマですがまず小沢さんから…

小沢　四年間の学生生活の間に、この学園で学んで体得したもので、社会に出て、生活上の信條とか世界観とかに影響を与えるもの、その人が体験で掴んだものだと思います。僕の場合は、キリスト教の信仰というものが、一番重要なものとして掴んだもので、これが今後の生活のバック・ボーンとなることは当然なんです。

司会　常類のように"神と国とのために"というのが本学の建学の精神ですが、鈴木さんはこの"国"という言葉をどのように解していますか。

鈴木　要するに世界人である前に日本人である、われわれが住んでいる日本から出発すべきではないか、ということですね。

司会　自分たちの国のために、立教はあるんだという……。

鈴木　結局そこにいきますね。

中村　私も鈴木さんに同感です。

椎名　僕は"神と国のため"と云われても、ピンとこないですね。何かが漠然としているんですが、立教に入ってきて、自分の今までの考え方が変ってきたことは事実です、始めは、積極的に仕事をしようという考えを持っていた。ところが立教に入ってきて、その考えが薄らいできた。まず、社会に早く順応しよう、社会に入ったらその会社の社風に順応しようという考え方になってきたんですね。

鈴木　大学三年までは興味には何もない。漠然として、理学部で実験させられて改めてある希望とでも言うんですか、仕事が身についたなと考えるようになった。

椎名　これは学部が違うせいかも解らないですね。一般に、積極性がないんですね。もう少し積極的な態度で、他人に対しても自分の思ったことを貫き通すような気風、バック・ボーンがあって欲しいと思います。

中村　結局、自信がないんですね。

小沢　プライドがないことですね。結局立教の建学の精神から直接生まれたものじゃないと思います。ひとつひとつ、その人自身の問題でもあると思います。

椎名　一般にそういえるんですが、しかし四年間に影響する力は大きいと思うんです。

中村　各個人の責任の方が強いような気がします。

(総長出席)

高橋　卒業に際して自分が得るものがなかったから、そんな結論になった場合には、自分に責任があると思います。

中村　他人と妥協をしながら自分をそれだけ伸ばすかということですね"なるようになれ"とか、何も収穫がなかったとは思いません。三、四年も真剣な気持ですねみなさんがフラフラした気持じゃないだろうと思います。

椎名　"なるようになれ"というのは誰が言ったか解らないけれども、たとえば、会社に入ってもすぐ社風に従ってしまうという、そういうことをいっている訳ですね。

鈴木　長年仏教国として、また仏教で培われているところに"神と国とのために"という建学の精神が入ってきて浮きあがったものになっているんじゃないですか。

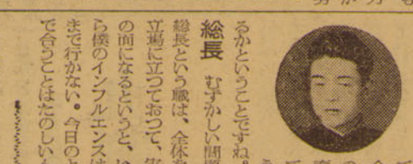
楠井　私も小沢さんの意見に賛成です。小沢さんのおっしゃったように努力まで行かなくても注意を払うぐらいの気持は、四年間のうちには少しでも持たなくてはいけないことだと思いますね。

司会　これは楽屋話になりますけれども、われわれの毎度の編集会議でもいつも問題になるのは、"そんなものを出しても読まない。無駄だ"というんです。だいぶ立教生の批判ばかり言っている訳ですが、考えてみても、驚嘆しなければならない人がいることは事実なんです。結局は、努力という点になりますね。

鈴木　そういう問題で、いつも突き当るのは、教育と個人の努力との相互作用です。教育の限界がどこにあるか。個人にそういう努力をさせるのが、教育だという考え方もある。この点について、学校側の教育方針も、僕にとっては問題になるんです。

独創的思想への刺戟
大学教育の理想だが矛盾する現実

小沢　"神と国とのため"という建学の精神を学生が十分に理解できない場合に、学校のほうの教育方針として、ということがあるかということですね。



総長　むずかしい問題ですね。総長という職は、全体を統轄するという立場に立っておって、実際の教育に直接関係しているというと、いかんながら僕のインフルエンスは仲々学生まで行かない。今日のような会合で合うことはたのしいんだ。本当ですね。

司会　そうすると、個人努力をさせるということは感じた問題はゆっくり話したいんだが、時間がなくて残念だ。結局、具体的に学生に接触しているのは教授であって、教育方針の根本的なことはわれわれが考えるが、具体的なことは、教授の教授会という組織がやる訳で、それが諸君の期待しているところと違うとすれば、非常に残念なことだ。ただ僕が教育というものをどう考えているか、それは創造的知能という言葉を使えば、大学教育は、これを啓発することだ。本当に考えることのできる人を養成する。考えるためにはむろん切離すことのできないのは学ぶという要素だ。しかし大学になれば、教わるというよりは、むしろ創造的知能を啓発することに重点を置いた教わり方だ。従って、独創的な思想を刺激するような教え方をすべきだと思います。

これは抽象的にいうだけであって、具体的には考えていないが、そういう風に常に考えています。」

司会　そうすると、個人努力をさせるということは感じた問題そういう矛盾を含んでいる社会を少しでも改良しようという努力がなされなければならない。四年間経って出る時には、他の学校にない特色――殊別秀れたことはないにしても、立教だけしか持っていない特色――を少しでも知ろうという努力をすることができたら、第一にキリスト教に接近しようという努力をなすことができたら、立教に学ぶ学生として有意義だと思います。

中村　大学はそれを感じたところなんですね。

鈴木　実際問題として、大学教育で、そういう努力をさせることは"越えた問題"だというけれどもそこに何か矛盾した問題があると思います。

総長　現実問題としては、現実と理想の二つの面がある。われわれとしても学校当局もそうだし、学生も、妥協点、調和点、ミートするところを、そこに掴んでいくより仕方がないと思います。もっと具体的にいうと、こういう点もある。学生の数が多すぎて、学生と先生との接触の機会が非常にすくない。そこで先生の数を増やせというのも結構ですが、経済的にできない。学生の数をこれ以上減らしたらまた経営できない。経営中心にして、うんと学生の数を増やして、素質の悪い学生でも入れるようなことがあるかもしれない。そういうデタラメな考え方でいくのもある。そのどちらにも通することはできないと思う。ある程度まで教育方面を犠牲にして経営面に妥協しなければならない。また、経営面もある程度は犠牲にして教育面に重点をおかなければならない。これは、必ずしも先生の月給だけのことじゃなくて図書館も貧弱だが、なんとかするのにも金がなければできないそこで、どうしても学生の数を増やすとか、多少教育を圧迫しないとできない。

司会　客観状勢を学生が掴まなければならないということですね。

椎名　僕は入ってきて、とにかくすごく立教の生徒はおとなしいというか、ズルイ考えを持った人間が多い――悪い言葉を使ったんですが――そういう感じがしました。

総長　立教以外の学生と比べてズルいから。(語気を強めて)

椎名　他では積極的に物事を考える。自分を考えてまた対象を考える訳です。立教の生徒にはそれがないんじゃないか。

歓迎される人間性
反面に"甘さ"の欠陥
正面きる気魄がない

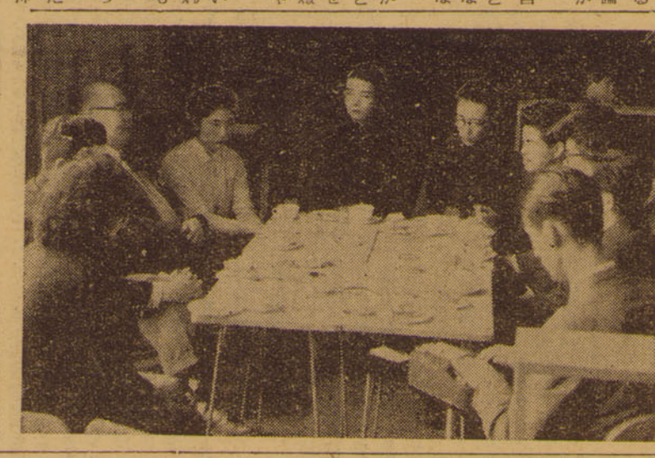
総長　僕は中央も大分教えた。一概にはいえないが、雰囲気という点からいうと、僕が立教ボーイだからも知れないが、やはり立教のほうがいいな。(笑声)のんびりしたところがあってね。中央の学生は何か現在よりか将来を考えすぎている。むろん将来は考えるべきです。ことに若い人は将来があるんだから、いいことですが、将来はやはり現在の継続だと思います。このコーヒーも現在たのしんで飲んでいる。(笑声)コーヒーの代りも結構だ。(笑声)仲々現在もたのしんでいるんです。このコーヒーを一杯節約して働くなるために時間も節約して勉強するのも結構ですが、ある程度までは、適度に程良く遊ぶという気持です。立身出世主義が全部じゃないんだ。

その点は立教は主義派から見ると不満がある。若干享楽的な面も持っている。しかし享楽的な面も抱臣の方が偉い。それは、神様の目から見れば別問題ですが。そう常識を外れて考えるわけにはいかないから、社会的地位も大事だ。いい地位についている人も相当いるわけです。だから全部が全部じゃないが、やはりある程度まで、立教を出た人に何 というかな……良くいえば人間的良さで付合っていく。だから商売上の交渉をする人間が生れてくれば、いいわけです。しんの通った人間が生れてほしい。

総長　同感だ。必ずしも統計的な事実が出ているわけじゃないが立教を出たものは人を使う立場になると具合が悪い。偉い人も、ずいぶん出ていますよ。社会的地位が全部じゃないか、コツキより大臣の方が偉い。それは、神様の目から見れば別問題ですが。そう常識を外れて考えるわけにはいかないから、社会的地位も大事だ。いい地位についている人も相当いるわけです。だから全部が全部じゃないが、やはりある程度まで、立教を出た人に何というかな……良くいえば人間的良さで付合っていく。だから商売上の交渉をする。ところが厳しいになると、そうはいかない。東大出は感覚で劣等感を抱いている。"頼む、頼む"と言っても、"頼むゾ"という代りに、どこが間違っているか、六法全書を開いて調べる。"お前のほうは、これを通す義務があるじゃないか"と長口で問うを負かしてしまう。東大を出た人はこういう気魄を持っている。社会的な面を持っているんだ。まあ、結局立教出のひとつの長所というとのんびりしていて人に与える感じがいい。……

椎名　松下先生の言われたとおりですね。そうしてみると案外悪いこともない……。

総長　ある立教の学生が公認会計士になりたいという。非常に結構だといった。"私に聞く前に公認会計士法を読んでみたか？""そんなの読まなくても解っている""六法全書を読め"というと、"法律はきらいだ"という人も生れてくれば、いいわけです。しんの通った人間が生れてほしい。



と、人遣けはいいんです。俺の友達がいるはずだからたのんでみようというわけで"頼む、頼む……"(笑声)その辺は非常に人柄がいいから、旨く通る。だから世間から、立教出は仲々良いと感じ通る。

椎名　松下先生の言われたとおりですね。そうしてみると案外悪いこともない……。

総長　ある立教の学生が公認会計士になりたいという。非常に結構だといった。"私に聞く前に公認会計士法を読んでみたか？""そんなの読まなくても解っている""六法全書を読め"というと、"法律はきらいだ"という人は将来があるんだから、いいことですが、将来はやはり現在の継続だと思います。このコーヒーも現在たのしんで飲んでいる。(笑声)コーヒーの代りも結構だ。(笑声)仲々現在もたのしんでいるんです。このコーヒーを一杯節約して働くなるために時間も節約して勉強するのも結構ですが、ある程度までは、適度に程良く遊ぶという気持です。立身出世主義が全部じゃないんだ。

その点は立教は主義派から見ると不満がある。若干享楽的な面も持っている。しかし享楽的な面も抱臣の方が偉い。それは、神様の目から見れば別問題ですが。そう常識を外れて考えるわけにはいかないから、社会的地位も大事だ。いい地位についている人も相当いるわけです。だから全部が全部じゃないが、やはりある程度まで、立教を出た人に何というかな……良くいえば人間的良さで付合っていく。だから商売上の交渉をする。ところが厳しいになると、そうはいかない。東大出は感覚で劣等感を抱いている。"頼む、頼む"と言っても、"頼むゾ"という代りに、どこが間違っているか、六法全書を開いて調べる。"お前のほうは、これを通す義務があるじゃないか"と長口で問うを負かしてしまう。東大を出た人はこういう気魄を持っている。社会的な面を持っているんだ。まあ、結局立教出のひとつの長所というとのんびりしていて人に与える感じがいい。……